

対エクアドル共和国 国別援助方針

平成 24 年 4 月

1. 援助の意義

(1) エクアドルは、石油など豊富な鉱物資源を有しており、また多様かつ豊かな自然環境を背景とした農水産品の生産国であることから、これら資源・食料の我が国への供給国としての可能性を有している。

(2) 同国は低中所得国¹に属するものの、経済発展は石油産業など一部の分野に限られ、先住民族が多く居住する地方農村部では開発が遅れており、所得格差や地域間の格差が未だ大きい²。また、エネルギー（電力）不足などの課題や、地震、火山噴火、水害など頻発する自然災害に脆弱であることも、同国の発展を阻む要因となっている。

(3) このような状況を踏まえ、我が国がエクアドルに対し、ODA 大綱の重点課題である「貧困削減」及び「地球規模の問題への取組」の観点から、ODA を通じた支援をしていくことは、同国の主要な開発課題の解決に貢献する上で有意義であり、こうした支援を通じて構築された二国間関係は、我が国の資源や食料の確保を含む二国間貿易の一層の発展にも資する。

2. 援助の基本方針（大目標）：格差是正と持続的発展

我が国は、上記援助の意義や同国のニーズを踏まえ、「貧困削減と公平な社会に向けた格差是正」を開発援助の中核とし、同国の均衡のとれた自立的・持続的な発展の促進に貢献していく。

3. 重点分野（中目標）

(1) 格差是正

同国では石油関連産業以外に収益性の高い産業が少なく、所得格差や都市と地方の間の格差が大きいことから、地方農村部の農業競争力の向上を通じて、同国の潜在的な農業生産力を発揮せしめ、経済成長をけん引させるよう支援する。また貧困層への職業訓練推進など社会的弱者への援助を通じて、格差是正に向けたエクアドルの取組を支援する。

(2) 環境保全・防災

¹ 経済開発協力機構（OECD）の開発援助委員会（DAC）の分類（2009 年）による。

² エクアドルのジニ係数は 54.4（人間開発報告書 2009）。また、2010 年の所得貧困指数は都市で 22.9%、地方で 52.9%（エクアドル国家統計調査 INEC）

ガラパゴス諸島、アンデス山脈、アマゾン河上流域の熱帯雨林などの森林破壊などは、国境を越えて広域的に自然環境に対して影響を及ぼす恐れがあることから、地球規模の課題への取り組みという視点も考慮して、これら豊かな自然環境の保全に取り組む同国への協力にも努める。また、自然災害が増加傾向にある中、防災分野への支援にも努める。

4. 留意事項³

(1) 一般プロジェクト無償資金協力が近く卒業の予定であり、今後は技術協力、草の根・人間の安全保障無償などが中心となる。我が国の有する知見や技術などを活用するという観点も踏まえ、限られた援助手法を有機的に連携させていくとともに、様々なスキームでの支援も視野に入れていく。

(2) エクアドルの格差是正と持続的発展のためには、我が国のみならず広く国際社会からも援助を受け入れることが重要であるところ、我が国が援助を実施するに当たっては、対外援助受入れに関する同国政府の方針に十分留意する。

(3) 経済構造が石油収入と中国からの借入に依存した公共投資などに支えられており、債務持続可能性に留意が必要である。

(了)

別紙： 事業展開計画

³ エクアドルを対象として実施された過去の ODA 国別評価は次のとおり。
エクアドル国別評価（第三者評価）（2008）報告書掲載先：
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/ekuatoru.html>